



# 松本さんら西多摩から4人

## 内田農業振興会功労者表彰

財団法人内田農業振興会(若林政夫会長、立川市)の第55回功労者表彰式が19日、明治神宮行われ、あきがわ、にしたま、西東京の3JAから緑綬功労者を1人、紫綬功労者を3人が受章した。

同功労者は、故内田秀五郎翁の農業への熱意を受け継ぎ、農業の振興に功労のあつた人たちに贈られるもので、2021年度は緑綬功労者に10人、紫綬功労者に17人が輝いた。

緑綬功労者を受章したのは、野菜部門でJAあきがわ日の出支部第5支部長などを務める松本哲男氏(67)。

紫綬功労者を受章したのは、果樹・酪農部門でJA西東京役員推薦委員などを務める関塚聡明氏(73)、花卉部門でJAにしたま総代の中村修氏(71)、農業団体役員部門でJAにしたま代表理事常務の大野英一氏(63)。

## 光は希望につながる

### 震災の年から11年目

野崎啓太郎さん宅

「きれい。声が聞こえた。光は希望につながるから好き」。道行く人からそんな声がかえった。

青梅市大門の野崎啓太郎さん宅のイルミネーションII写真IIは東日本大震災の年から飾り11年目。高さ5層ほどの金木犀と15層ほどのケヤキに、夕方灯りが付き21時ごろまで輝く。今は新型コロナウィルスの早期収束を願う光は新年3日ごろまでとせず予定。



## 地元で愛される喜正の酒粕

### 手軽に甘酒 冬場の定番

喜正で知られる野崎酒造(あきる野市戸倉)の酒粕で作る甘酒は地元五日市では冬場の定番。寒さが厳しいを増すほど、恋しくなる味だ。

同酒造では、目の前に仰ぐ城山の伏流水を使用し長年酒造りを行ってきた。純米大吟醸をはじめ「しろやま桜吟醸酒」などを昔ながらの製法で、真摯に丁寧に作り上げている。いずれも香り高い味わいで、多くの左党に支持されてきた。

そうした酒作りから生まれる同酒蔵の酒粕は米の粒々感が残る昔ながらのものII写真。甘酒は酒粕を使用すれば手軽に作れる。「飲む点滴」とも言われ、美容にも良いところから近年酒粕は幅広い世代から人気を集めるている。

同酒造のほか、喜正取扱店などで求められる。

■ニュースサイト東京25ジャーナルは開設して2カ月が経ちました。毎週土曜日にタブロイド判をPDFで配信しています。パソコン、スマホで御覧いただけますが、プリンタアウトすると読みやすくなります。サイトでは7月10日の創刊準備第1号からダウンロードできます。



## 病気を診ずして人を診る

大久野病院の進藤晃院長は1964年、医家の3代目として生まれた。青梅市に進藤医院を開いた利定氏、日の出町に大久野病院を開いた利雄氏を祖父と父に持つ。子どものころから「おまえは医者になれ」と決められて育つたという。

「自分の将来を強制されるのがストレスだったのだから。小学5年生のとき下痢が止まらなかった。利定氏はやがて北海道に移住する。慈恵医大を出て、小樽市内の病院に勤務したが、志を抱いて上京。昭和5年(1930)に住江町に念願の医院を構えた。

一方、利雄氏はどちらかという人づきあいは苦手。だが、学業はきわめて優秀で府立二中(現立川高校)と祖父と同じ慈恵医大に進み、どちらも首席で卒業。前途

### 大久野病院 進藤晃氏



洋々たる行く手から精神科医を選び、昭和47年、西多摩に慢性期医療の拠点を定めた。

「慈恵には『病気を診ずして病人を診よ』という教えがある。そんな医療を実践する2人を先達として、埼玉医科大学に入学。医学生時代は小児科に興味を持ったが、実家を継ぐことを前提に循環器内科を選択した」

1989年、医師国家試験に合格した進藤院長は母校の附属病院に勤めた。ほどなく実家から「病院の経営が厳しい」との連絡があり、28歳のとき大久野病院に入職。家業存続の使命に燃え、病院改革に取り組み、無事黒字化に漕ぎ着けている。



先代の仕事と教え

「外科医だった祖父は救急病院を運営し地域の人々から頼りにされた。そのかたわら警察医

どこにいても直らなかった方へ(3密対策を徹底)

秋川駅北口 41年の実績

# 太田ハリ灸治療院

042(550)5591 完全予約診療(当日予約も可) 土日も診療

初診料 3,000円 治療費 3,500円 (学生2,500円)

この広告で来院した方は 初診料無料

坐骨神経痛、ヘルニア(腰、頸椎)、脊椎管狭さく、五十肩、ひざ関節症、肩こり、エルボ(テニス・ゴルフ)、湿疹、スポーツ障害など

坐骨神経痛=お尻から足にかけて痛み、シビレで歩くことが困難な方

●あきる野とうきゅう ●西武信金

五日市街道 秋川駅

あきる野市秋川1-1-13共和ビル3階 秋川駅徒歩1分

笹原プロは「私が元気に大会に出場できるのは痛めた腰・肩の治療を受け、体のケアをしているからです」

